

江藤淳からの問い

第一部 平山周吉氏講演

甦える江藤淳

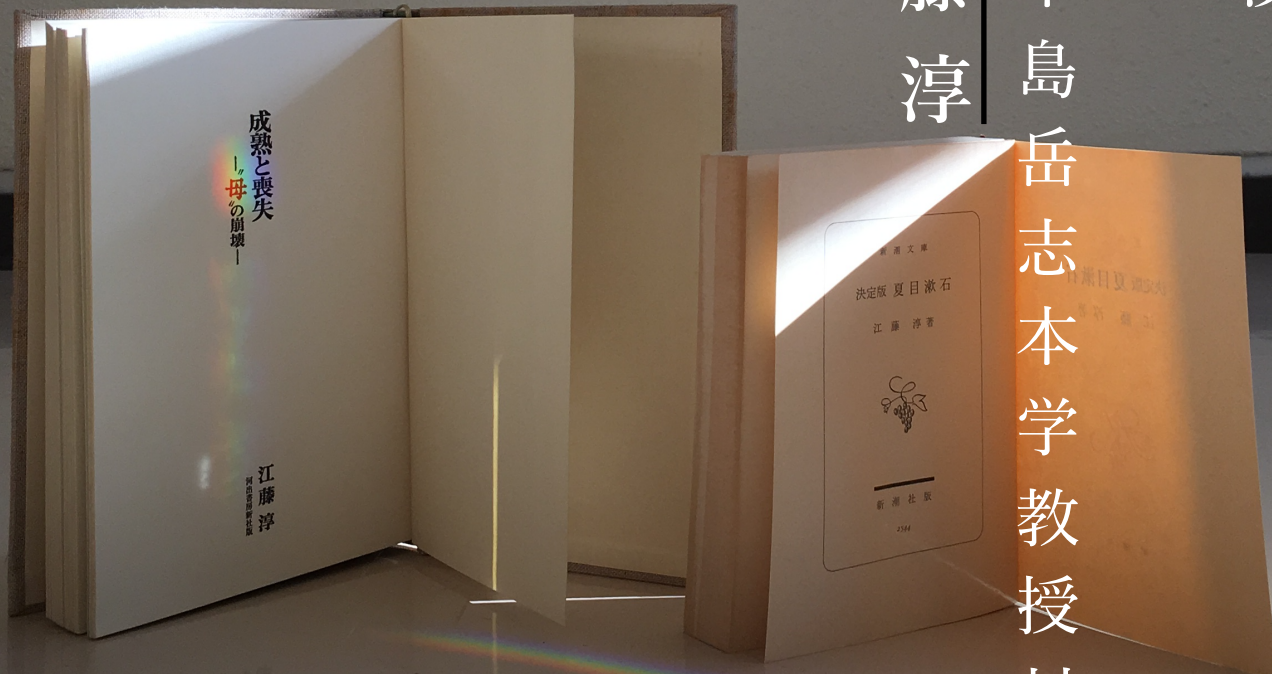
第二部 平山周吉氏×中島岳志本学教授対談

東工大時代の江藤淳

戦後日本を代表する文藝批評家であり、保守派の論客として活躍した江藤淳。彼は東京工業大学に1971年から約20年間、教員として在職していました。没後18年が経ちましたが、いまでも江藤淳の著作は読み継がれています。江藤淳の魅力とは何か。戦後日本に向けて、彼は何を問いかけたのか。江藤淳を読み返すことで現代日本を再考します。

【平山周吉氏プロフィール】

昭和27（1952）年、東京生まれ。慶応大学文学部国文科卒。出版社で雑誌、書籍の編集に従事した。平成11（1999）年に江藤氏が自死する当日、編集者として最後の原稿を受け取る。現在、文筆家。月刊誌『新潮45』で伝記「江藤淳は甦える」を連載中。著作に『昭和天皇「よもの海」の謎』（新潮選書）、『戦争画リターンズ——藤田嗣治とアッツ島の花々』（芸術新聞社）がある。



2017年10月23日（月）18～20時

東京工業大学大岡山キャンパス
西9号館2階 デジタル多目的ホール

主催：東京工業大学リベラルアーツ研究教育院
対象：本学学生、教職員、一般 入場無料、予約不要（開場は17時30分）
問合せ：リベラルアーツ研究教育院文系教養事務室
電話：03-5734-7689（10時30分～17時）メール：ilasym@ila.titech.ac.jp

